

いじめを見立てる力を高める校内研修 進行台本

～司会者用資料～

検討項目	活動内容	声かけのポイント
(5) ワークの準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5種類の情報カードについて、参加者の担当者を決める。 ・ 記録者と協力して、情報カードを分配する。 	<p>《役割担当》</p> <p>情報1：() 情報2：()</p> <p>情報3：() 情報4：()</p> <p>情報5：()</p>
I 情報収集 状況整理 (目安：14分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめの初期判断に必要な情報について、意見を出し合う。 <p>①共通情報</p> <p>②個別情報(情報カード太枠内)</p> <p>観点1：影響を与える「行為」は何か？</p> <p>観点2：「行為」に対する本人の反応・様子は？</p>	<p>【発言の促進】</p> <p>①まずは、「共通情報」の中から、この事案が「いじめ」かどうかを判断する際に、必要と思われる情報を出してください。</p> <p>②次に、役割ごとの「個別情報」の中から、影響を与える「行為」やそれに対する本人の反応や様子について、情報を出してください。</p>
	<p>【各観点における声かけ】</p>	
	<p>観点1：児童生徒に影響を与えている「行為」として、周囲の言動や関わり、状況や雰囲気などがあれば報告してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それは誰の行為ですか。 ・ それは誰に対してですか。 ・ そのときの本人の様子は。 <p>→観点2へ</p>	<p>観点2：「行為」等に対して、この児童生徒の被害感の訴えや、心身に苦痛を感じていると捉えられる様子はありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本人の表情や反応、気になるところがあれば報告してください。 ・ それは、どのような行為や状況に対しての様子ですか。→観点1へ
II 深刻化のリスク 資料1 (目安：10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 深刻化の三つのキーワードに該当する内容(行動や発言、背景要因)について、意見を出し合う。 <p>①行為の反復性</p> <p>②アンバランスパワー</p> <p>③シンキングエラー</p> <p>ア：被害的立場</p> <p>イ：加害的立場(加害モデル)</p> <p>ウ：傍観者</p> <p>エ：教職員</p>	<p>【発言の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主観や想像でもかまいません。 ・ どこに入るか迷った場合も、意見を共有するために出してみてください。 ・ 今の意見に関連して、何か意見はありますか？ <p>【次のキーワードへの移行】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ とりあえず次に移りますが、また思い浮かんだところで意見を出してください。 <p>※時間内でも、意見が出なければ次の検討項目に移ってよい。</p>

III 初期判断 資料2 (目安：10分)	(i) 表面 判断の <u>3観点の有無</u> について、合意形成を行う。 ① 本人の被害感 (心身の苦痛) ② 影響を与える行為 ③ 客観性 (目安：7分)	【発言の促進】 ・(例：①本人の被害感)について、有無の判断に対する意見は何かありますか。 ・意見が出なかった場合 →(例：①本人の被害感)について、「ある(ない)」と仮定したとき、それに反対する考えはありませんか。 【3観点の有無の不合意】 ・ある観点の合意が得られない場合 →これは初期判断なので、先の状況に応じて判断が変わることもあります。今回は、保留として先に進めていきます。
	(ii) <u>初期判断</u> をA～Gの中から決める。 (目安：1分)	【判断の合意】 ・ここでの判断は(例：A)として、支援の方向性の例を確認しましょう。 【判断の不合意】 ・(i 判断の3観点の有無)において、ある観点の合意が得られなかった場合 →下の 早見表 で確認する 例：②行為、③客観性は「有」で合意し、 ①本人の被害感で合意が得られない →(例：①本人の被害感)について、合意が難しかったので、初期判断は、(例：AとD)の両方を意識しながら、今後の支援の方向性を確認することにしましょう。
	(iii) 裏面 支援の方向性の例を確認する。 (目安：2分)	・このグループの判断は(例：A)なので、資料2の裏面の○○(例：Aの方向性の例の内容を読む)が支援を考える際のポイントになります。

《初期判断の**早見表**》 (○：有 , -：無)

3 観 点 の 有 無	① 本人の被害感	○	○	○	-	-	-	-	
	② 行為	○	-	-	○	○	-	-	
	③ 客観性	○	-	○	-	○	-	○	-
		A	A'	B	C	D	E	F	G
初期判断 の分類		いじめ	いじめの疑い	被害的 (迫害的) 不安の増幅	深刻ないじめ の可能性 or いじめへの 発展を危惧	学校・学級風土 に対する危機感	集団における 関係性への不安	高い予防意識 or 不安感の表出	
緊急度	高								低
中心となる 支援の対象	個人	被害的立場・報告者 加害的立場			グループ(部活動)	学級	学年	学校	集団

※判断D：①本人が被害感を訴えていないため、現時点での緊急度は中程度だが、経過観察では特に注意が必要。